

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (296)

キューリって？

夕食後、タモツ君のおばあさんがおじいさんと話しています。

「先ほど、あなた、キューリって、おっしゃったわね。」

「うん。イウがユーになる例として、君が^{はにゅう}壇生を挙げたから。」

「ハニフがハニューになるのはわかるけど、キューリはキウリ？」

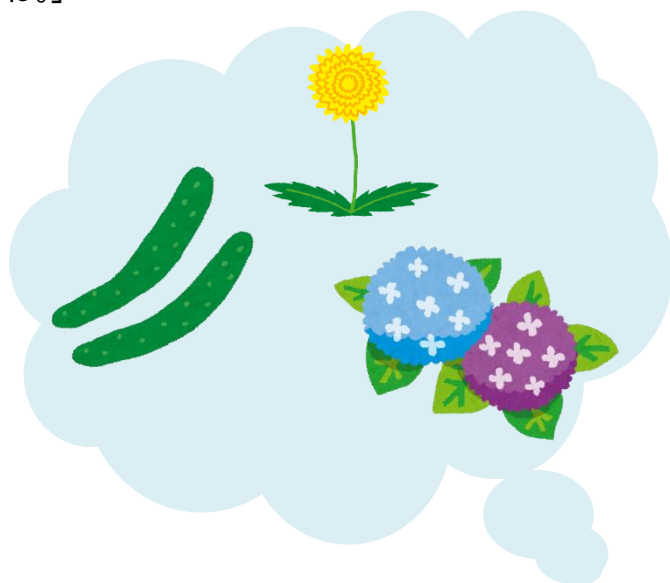
「そう。キウリ。」

「漢字で書くときは、^コ胡^{ウリ}の瓜、胡瓜じゃありませんか。」

「そう。^コ胡椒^{ショウ}とか^ゴ胡麻^マとか、中国の北方や西方の地から渡来したとされる産物。」

「じゃ、コウリではありませんか。」

「あ、そうか。胡瓜は、^{オン}音でいうと、コカ。日本語では、^キ熟すと黄色になるので、^{ウリ}黄の瓜^ホということ、^{コウエイ}きうり。蒲公英が^{タンポポ}たんぽぽ、^{シヨウカ}紫陽花があじさいになるような訓なのだね。」



^{きゅうり}「胡瓜」^{たんぽぽ}「蒲公英」^{あじさい}「紫陽花」のように、漢字二字以上の熟字全体に、日本語の訓をあてて読むことを「熟字訓」というのでしたね。



【編集部注】胡瓜 コカ(音) きゅうり←きうり(訓)
蒲公英 ホコウエイ(音) たんぽぽ(訓)
紫陽花 シヨウカ(音) あじさい(訓)